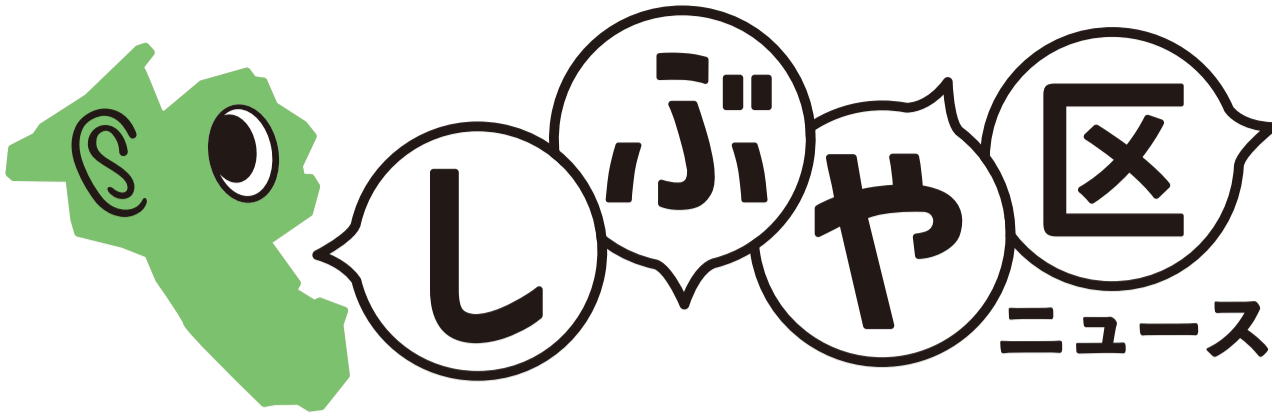


顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

平成30年
(2018年) 10月1日

No.1395



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 渋谷1-18-21
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | city_shibuya_official



(左) 代々木八幡宮 神主 平岩昌利さん (右) 作家 平岩弓枝さん

変わりゆく渋谷区とともに。

文学に寄り添い、時代を見つめ続ける夫婦。

2 | 文学を愛した夫婦が振り返る、
3 | 「本が人生に与えてくれたもの」。

4 | 平成30年 第3回区議会定例会
5 | 区長発言(抄) ほか

6 | 10月は3R推進、
7 | 世界食料デー月間です ほか

8 | 暮らしの情報
11

★渋谷区役所は庁舎建替えのため、仮庁舎へ移転しています。

所在地▶ 渋谷 1-18-21

文学を愛した夫婦が振り返る、「本が人生に与えてくれたもの」。

渋谷のラジオで
出張インタビュー

渋谷区で生まれ育った作家・平岩弓枝さんと、夫で代々木八幡宮 神主の昌利さん。渋谷の思い出と、読書週間に寄せて文学に対する思いを伺いました。



名誉区民・作家
ひらいわゆみえ
平岩弓枝さん

世の中は移り
変わっていくもの。
街が発展していく
様子を見るのは
楽しみです。

——小説家・脚本家として活躍されている弓枝さんは、代々木八幡宮の生まれで、昌利さんは弓枝さんと結婚後、代々木八幡宮の神職を務められていると伺っています。お二人はずっと、代々木にお住まいなんですね。

弓枝：私は生まれも育ちも代々木八幡です。昭和7年の生まれなのですが、一人娘だったので、血筋が絶えてはいけないということで、一度だけ終戦の年に半年ほど福井県に単身疎開しました。その時以外は、ずっと「主」のごとく代々木から動いていません。

昌利：私の実家は文京区の湯島だったのですが、戦争で焼けてしまったので、田舎に疎開していました。東京に戻ってきたのは大学受験のためですね。その後は幡ヶ谷に住んでいました。結婚して、代々木八幡宮の神主になってからは、ずっと代々木に住んでいます。

——昌利さんも昔、小説家を目指していたと伺いました。お二人の出会いのきっかけも、文学を通じてだったそうですね。

昌利：僕は疎開していた頃に、アルチュール・ランボーやシャルル・ボードレールなどの詩にずいぶん傾倒しました。本当は詩人になりたかったんですが、親類に「詩人はやめときなさい、食えないから」と言われて、「じゃあ、小説家になろう」と思ったんです。それで作家の長谷川伸先生を紹介してもらって、先生が主宰する勉強会「新鷹会」に顔を出すようになりました。

弓枝：長谷川先生にはお弟子さんがたくさんいました。「新鷹会」にも村上

元三、山岡荘八、戸川幸夫…そのほか大勢の作家が参加していて、その中で一番若いメンバーが、私と夫だったんです。

昌利：デートは古本屋によく行きましたね。

弓枝：古い本からいろいろなものを学ぼうとしていたんです。彼は西洋文学が好きで、私はその逆だったから、お互いに不得手の分野を補い合えて具合が良かったんじゃないでしょうか。

——東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などに向けて、区内を含めさまざまな場所で再開発が行われています。長い年月の中で、この代々木の風景も昔と今では大きく変わりましたか？

弓枝：ずいぶん変わりましたね。私が生まれた頃は畑ばかりでした。昔は「代々幡町(よよはたまち)」と呼ばれていて…もちろん、戦前の話ですが。

昌利：明治の頃は村、大正時代から町に変わったんだよね？

弓枝：そうみたいね。私の母は箱根神社で育ったんですけど、ここに嫁ぐ時に「東京に行ける！」ってとても喜んでそう。でも、いざ来てみたら「箱根の方がずっと都会だった…」と、ずいぶん泣いて父を困らせたんだとか。

昌利：当時は牧場も多かったそうです。自然豊かというか、田舎ですね(笑)。

弓枝：そうそう。明治天皇が牛乳を召し上がるということで、政府が「牛乳は体にいいものだ」って奨励したんですって。小学校の授業でも、よく牧場に牛を見に行きましたね。

昌利：これからオリンピック・パラリンピックがあって、また風景も変わるんだろうけど、前の東京オリンピックの時もだいぶ変わりましたからね。渋谷駅の周辺とか、たまに行くと驚いてしまいますね。

弓枝：私は土地の歴史は大事だと思いますけど、発展を邪魔するような考え方はしない方がいいと思っています。世の中って変化していくものだから、抑えつけることなんてできない。

昌利：その変化の中には、美しいものや良いもの、そしてもちろん醜いものや悪いものもありますから。時代に応じて、よく見極めていくことが大事だと思います。

——反対に、「ここは変わらないな」と思う場所がありますか？

昌利：代々木公園かな。よく二人で散歩しに行くんですよ。桜の時期には必ず花見に出掛けますね。お気に入りの喫茶店でお茶を飲んで帰るのが習慣になってますね。

——話は変わりますが、お二人とも子どもの頃から読書がお好きだったんですか？子ども時代はどんな本に触れていたのでしょうか？

弓枝：私の父が易経(古代中国の書物)を研究していて、歴史書をよく読んでいたんです。それで古事記や万葉集と一緒に勉強し始めたというのが始まりですね。私、子どもの頃は全然友達がいなかったんです。だから、頼る人は両親しかなくて。古典に触られたのは良かったんですけど、私が大学に入る頃には「西洋文学を学ぶこと

がハイカラだ」という雰囲気になっていて、ほかの皆さんと比べるとだいぶ後れを取っていたんですけど、入学した日本女子大学の教授や同輩がとても良くてくれて、すぐに追いつくことができましたね。

昌利：平安時代や江戸時代の文学にも詳しいよね。

弓枝：ほかに読むものがなかったんですもの(笑)。西洋文学は、アンデルセンぐらいしか読ませてもらえなかったですからね。

——作家になりたいと考え始めたのはいつ頃だったんでしょうか？

弓枝：小学生の時に渋谷区がやっていた作文のコンクールに入選したことがあって、それが間違いの元でした(笑)。親が「この子は文才があるぞ！」って思い込んでしまって…。うちで飼っていた犬について書いたんです。両親が、一人っ子の私の遊び相手にと感じて飼ってたんですけど、とても賢い犬で、私が学校に行く時は、石段の下まで見送ってくれて、帰ってくるのをちゃんと待ってるんですよ。

昌利：当時、この人は学校の勉強がつまんなくなっちゃって「頭が痛い」とか「お腹の調子が良くない」とか言って帰って来ちゃったんだよね。で、材木屋の材木置き場で時間を潰していたらしいですよ。そしたら、不思議なことにその犬が迎えに来たそうです。

弓枝：そう。お宮から出ないように訓練していたのに、必死になって通りの向こうから走ってくるんですよ。学校の終わりのサイレンが鳴るまで私と犬はそこにボツンと座って待ってるんです。後々親にサボタージュがバレた時には、「犬までグルになってたのか！」って犬と一緒にうんと怒られました(笑)。別に文才があったわけじゃなくて、題材が良かったのよね。でも、賞をもらっちゃったから、「この子は文学をやれそうだ」という雰囲気になっちゃったんですよ。

——その後、作家として『髪師』で第41回直木賞を受賞。『御宿かわせみ』や『はやぶさ新八御用帳』など数々のヒット作品を生み出しているわけですから、ご両親は正しかったということになりますよね。

弓枝：それは分からないですけどね(笑)。ドラマの脚本もやりましたが、文学と違って、当時は誰も挑戦したことのない分野だったんですよ。それが皆さまに認められて、今でもこうして作家として活動できているのは幸せなことですね。

——10月27日から読書週間が始まります。日本人全体の読書量が減り、活字離れが進んでいるといわれていますが、こうした現状をお二人はどのようにお考えですか？

昌利：僕らはとにかく本を読むことが全てでしたから、子どもの頃に読んだ本のことはまだ覚えています。本を読んだり、字を書いたりすることって、「よく考える」ということと同じなんです。今の時代のスピードに対応するためには便利な機械に頼るのも、もちろん大事だし必要なことですが、手を動かして字を書いたり、本を読む中からいろいろなものを吸収して、学んだり、考えを深める。その大切さは忘れない方がいいと思いますね。



代々木八幡宮 神主
ひらいわまさとし
平岩昌利さん

テクノロジーも大事
ですが、本を読んで、
実際に手を動かして
字を書くことも大事
だと思います。

弓枝：活字離れというのは、一朝一夕でどうにかできることではないとは思えます。ただ、すぐにでも、何とかしなければいけないのは確か。個の力には限界がありますから、大勢の人で力を合わせれば頑張らなければいけないと思いますね。

特別展「作家・平岩弓枝展 一人と作品」

渋谷にゆかりの深い作家・平岩弓枝さんの作品と人となり、直筆原稿などと共に紹介します。

日程 10月20日(土)～31年1月20日(日)

会場 郷土博物館・文学館

問 郷土博物館・文学館 ☎3486-2791 ☎3486-2793



10月27日(土)～11月9日(金)は読書週間です



秋の図書館フェア「平岩弓枝の世界」

日程 10月19日(金)～31年1月16日(水)

会場 中央図書館

問 中央図書館 ☎3403-2591 ☎3403-2270

平岩さん夫婦のインタビューは10月2・9日に「渋谷の星」で放送します。

※紙面に掲載している情報は、平成30年10月1日現在のものです。

問 広報コミュニケーション課 広報広聴係 ☎3463-1287 ☎5458-4920

渋谷区の番組を放送中です

ラジオ しぶや区ニュース (10分間)
月～木 11:00/16:00/21:50
「しぶや区ニュース」の情報を発信します。

渋谷の星 (45分間)
火 11:10
渋谷区で活躍する人たちが登場します。

渋谷のくらし (30分間)
火 16:20
地域の催しなどの様子を伝えます。

ラジオ しぶや区ニュース (区長の部屋ほか) (10分間)
金 11:00/17:00/19:50
長谷部健 渋谷区長が出演します(ラジオしぶや区ニュースの内容になる場合あり)。

「しぶや区ニュース」 × 渋谷 とは？

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数： 渋谷 FM 87.6MHz

☆公式アプリでも聴取可能
所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876
FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/